

[目次]

まえがきにかえて 私とビデオ（アート） 伊奈新祐 7

序論

視聴覚メディア 13

第一部

テクノロジーそしてメディアとしてのビデオ 41

メディア発展の系譜学的モデル 44 メディアシステムの変動と
ビデオの独自性の美学的分析 49

メディア論的考察 50

デジタルとアナログ：既存の理論的アプローチの不十分さ 50 ハイブリッド化の概念 55 表象／電子映像／合成映像 60 電子的変換とデジタル的シミュレーション 63 表象／電子映像／コンピューター映像 65 ビデオとハイブリッド化 68

視覚化をめぐる議論 72

画像的転回 72 エイゼンシュテインの試み 75 フルッサーの技術映像論 76 図像的転回／シミュレーションとディシミュレーション 80 メディア映像の諸類型 82 ビデオ映像の批判的ポテンシャル 84 視覚文化／電子文化 85

技術と機器に関わる諸前提 88

ビデオの技術的構造 88 ビデオ映像の諸特性 92 ビデオとテレビ 94 電子映像とデジタル映像 97 映画／ビデオ／コンピューター 100 ビデオとテレビの成立過程 101 ビデオの再帰的諸形式 104

マトリクス映像 107

不可視的秩序の可視的構造化 107 マトリクスの概念 108 ビデオにおけるマトリクス現象：ウッドディ・ヴァスルカの習作 110 ベクトル循環のメカニズム 114 デジタルなシミュレーション映像 116 デジタル性と映像の隠喩 120 ビデオとコンピューターの結びつき：コード化とプログラミング 123 ハイブリッド

第二部

再帰的メディア 131

〈映像技術者〉の仕事 136 実験的ビデオ実践の三つの方向性
138

実験段階 140

ポータパックの登場 140 ビデオ誕生期のいくつかの場面 143
複数の同時並行的発展 147

ゲリラ・テレビジョン 152

アーティスト・ビデオ 155

ホワイトキューブへの抵抗 155 メディアの境界とその越境 156
マルチメディア的展示 157 コンセプチュアルなビデオーパ
フォーマンス 159 女性表象の脱構築 160 公共映像との取り組
み 161 観察・チェックのメディアとしてのビデオ 163 空間
インスタレーションへの拡張 164 中継メディアとしてのヴィデ
オ 166 ビデオ使用のその他の諸方法 166 劇映画へのヴィデ
オの進出 167 ビデオ、映画、アートシーンの緊張関係 168

補論：映画、ビデオ、コンピューターの関係について 170

ビデオと実験映画の非対称的な相互関係 170 実験ビデオと
実験映画の並行的発展 171 映画からビデオへの越境者たち
172 シャーリー・クラーク 173 エド・エムシュウィラー 175
ジャド・ヤルカット 177 拡張映画の別の方向性 179 映画とヴィ
デオへのデジタルテクノロジーの導入 180 パット・オニール
180 スタン・ヴァンダービーク 182 映画とビデオ：同時並行
的發展 187 シンセサイザーとプロセッサ：定義と概説 188

実験ビデオ 195

ビデオ実践の映像技術的な方向性 195 実験ビデオで用いら
れた機器と装置 196 実験ビデオのアプローチとテクノロジー
の発展の密接な結びつき 201 写真的思考からの離反 202 抽象
映画と実験ビデオの相違点 205 ウッディ・ヴァスルカの *Art
of Memory* 206 ゲイリー・ヒル 209 ナム・ジュン・パイク 212
実験ビデオの二重のアプローチ 214

ビデオ文化 217

ビデオ実践の三つの方向性 217 キッチン：メディア横断的な
実験の場 221 メディアの誕生の諸段階 222 ビデオ文化的実
践の端緒：アコンチとオープンハイム 223 女性の身体表象の再

帰的主题化：ローゼンバッハ、ジョナス、エクスポート、ペッツォルト 224 テレビ映像への介入：バーンバウム、パイク 224 写真的-映画的映像への介入：フォム・ブルッフとオーデンバッハ 226 映像レベルと対象レベルの緊張関係：キャンパス 227 二次元的摸像と三次元的シミュレーションの対置：中島 227 ヴィデオによる映像の再メディア化 228 映像性のダイナミズムの強化と圧縮：ギトンとランゴート 231 ダイナミズムの除去：レヴィーネ 231 メディア的リアリティの自己反省と閉回路の活用：セラとキースリンク 232 物語的リア性とプロセス的視覚性の緊張関係：カエン 233 異所的なコラージュとしてのヴィデオ映像：カラス 233 ヴィデオ-スクラッチ：オルティスとアーノルト 234 コンピューターメディアにおけるスクラッチ：Jodi 235 可視性の限界の探究：ラーチャー 236 ヴィデオ映像の諸性質の意識化：フーヴァー 239 マトリクス映像における表面と構造の諸関係：ヒル 239 メディア言語の翻訳と電子的語彙の探究：ヴァスルカ夫妻 240 メディア的リアリティの多面的考察：ハーシュマン 241 ハイパーメディアへの移行：シーマン 243 電子的語彙の探究にほとんど寄与しないヴィデオ使用：ビル・ヴィオラの事例 245 マルチメディアへの拡張：アハティラ、アケルマン、ウエアリング 246

第三部

ビデオ美学 251

スケール、ペース、パターン 253 キャパシティ、速度、操作性 255 技術と美学の対話的關係 256 プロセス性と変換性 257 視聴覚性、再帰性、複数的な装置的秩序 259 ヴィデオの間メディア的な確立 259 ノイズからのヴィデオの誕生 261 視聴覚性(変換性)、再帰性(プロセス性)、抽象化(ノイズ) 263

機器、自己反省、パフォーマンス：ヴィト・アコンチとデニス・オッペンハイム 264

映像、摸像、メディア映像：ウルリケ・ローゼンバッハ、ジョン・ジョナス、ヴァリー・エクスポート 281

ビデオ／TV：ナム・ジュン・パイクとグラ・バーンバウム 297

ビデオ、写真、映画：クラウス・フォム・ブルッフとピーター・キャンパス 310

構造ビデオ：ミヒャエル・ランゴート、レス・レヴィーネ、ジャン＝フランソワ・ギトン、リチャード・セラ、ディーター・キースリンク 325

ビデオの音楽化：ロペール・カエン	341
マルチレイヤー化と圧縮：ピーター・カラス	349
ビデオ・スクラッチ：マーティン・アーノルトとラファエル・モンターニェス・オルティス	357
ビデオ・ヴォイド：デイヴィッド・ラーチャー	365
マイクロ次元／マクロ次元：ナン・フーヴァー	373
映像、テキスト、声、書字：ゲイリー・ヒル	380
ビデオとコンピューター：スタイナ・ヴァスルカとウッディ・ヴァスルカ	391
ビデオとヴァーチャル環境：リン・ハーシュマン	428
ビデオ、詩学、ハイパーメディア：ビル・シーマン	438
ビデオ・インスタレーション：エイヤ＝リーサ・アハティラ、シャントル・アケルマン、ジリアン・ウェアリング	447

展望

複雑性とインタラクティヴ性	457
---------------	-----

訳者あとがき	465
--------	-----

文献一覧	471
図版一覧	480
人名索引	486